世界で初めて全身麻酔薬で乳がん摘出手術成功２２０年記念事業

世界の医聖華岡青洲「読み語り読本」出版

定価：５５０円（税込）

華岡青洲さんの
「偉業・志・人生観」がわかる

毎日新聞6月29日付け掲載

青洲の偉業 知って

来月2日に読み語り会

世界初乳がん手術から220年 生涯や思想を読本に

紀の川　1804年に全身麻酔を使った乳がん摘出手術を世界で初めて行ったとされる江戸時代の医師、華岡青洲（1760～1835年）の顕彰活動をしている一般財団法人「青洲の里」（紀の川市）などが、青洲の生涯や思想などを読本にまとめ、3月2日に市那賀総合センター（同市名手市場）で読み語り会を開く。今年は手術から220年に当たり、同法人代表理事の神徳政幸さん（64）は「節目の年に偉業を各地に広めたい」と話している。【藤原弘】

読本は「世界の医聖　華岡青洲～世のため　人のため　地域のため～」（縦横各21㌢、22㌻）。青洲の生涯を研究している市那賀地区公民館上名手分館館長の谷脇誠さん（75）が執筆した。ゆかりの場所などのカラー写真を掲載し、麻酔薬を開発した経緯や、世界初とされる全身麻酔による乳がん摘出手術を大和国五條（現・奈良県五條市）の女性に行った際の様子などを記述。青洲の医学に対する考え方や、地域に農業用ため池を造るために尽力したことにも焦点を当てている。

谷脇さんは「読み語りに使えるように分かりやすい言葉を使い、思いやりと助け合いを実践した人格者の部分に重点を置いた。医学についても外科だけではなく、伝染病の治療を行うなど、総合的な医者だった」と話している。

読み語りの会は午前10時開始。参加無料で、申し込み不要。「華岡青洲検定」の修了者らでつくる「医聖華岡青洲サポートクラブ」のメンバーが読み語りを行う。会の終了以降は、同法人が運営する道の駅「青洲の里」（紀の川市西野山）で、1冊550円（税込み）で販売する。希望者には送料自己負担で郵送することもできる。

神徳さんは「すっと頭の中に入ってくる記述になっている。青洲のことを調べるにはまずこの本から入り、さらに学習を深めてもらえたら」と期待している。問い合わせは、道の駅「青洲の里」（0736・75・6008）。

完成した読本を持つ谷脇誠さん（右）と神徳政幸さん＝紀の川市西野山の春林軒で

読売新聞6月26日付け掲載

医学に、地域に 尽くした青洲

華岡青洲の肖像画＝紀の川市提供

紀の川の法人 冊子制作

来月２日発刊 業績、人柄の魅力 紹介

世界で初めて全身麻酔を用いた乳がんの摘出手術に成功した江戸時代の外科医・華岡青洲（1760～1835年）。医学的な業績に加え、その人となりも紹介する冊子が3月2日に発刊される。手術成功から今年で220年の節目を迎えるのを記念し、青洲を顕彰する紀の川市の一般財団法人「青洲の里」が制作。これまであまり知られていなかった青洲の人柄の魅力も広く伝えたいという。（清水美穂）

水みたば　心をこめて
田うへせよ　いけのむかし
をおもひわすれず

紀の川市の農業用ため池「垣内池」のほとりにある石碑には、青洲の詠んだ歌が刻まれている。

ため池は、青洲が私財を投じ、稲作をするのに困っていた地域住民を助けようと造った。地元の寺や神社に多額の寄付をしたとの記録もある。「子どもの頃に大金が入った財布を拾い、『落とした人が困っているだろう』と、その場で待ち続けて持ち主に返却した逸話もある。

冊子には、こうしたエピソードを織り交ぜ、「青洲は（中略）多くの人びとのつながりや縁に恵まれ、『人を大切にする心』『人とともに生きる心』を忘れませんでした」などと記している。

冊子の発行は、語り部の有吉佐和子の小説「華岡青洲の妻」で広く知られ、今回の冊子にもエッセンスを盛り込んでいる。

青洲は紀伊国西野山村（現・紀の川市）に生まれた。医師だった父の影響を受け、23歳の頃から京都に遊学して医術を学んだ。その後、地元に戻って家業を継ぎ、麻酔薬の開発にも取り組んだ。

37歳の頃には6種の薬草を配合した麻酔薬を開発し、文化元年（1804年）10月、全身麻酔下での乳がん摘出手術に世界で初めて成功。医塾兼診療所「春林軒」からは2000人を超える門人を輩出するなど、近代外科学の基礎を作った。

手術の成功から220年を迎え、同法人代表理事の神徳政幸さん（64）は「青洲は教科書に載っていておかしくないほど偉大な人物。多くの人に知ってもらいたい。いつか1万円札の顔に青洲が選ばれるのが夢だ」と話す。

制作した冊子「世界の医聖　華岡青洲～世のため人のため地域のため～」（22㌻、550円）は、紀の川市の道の駅「青洲の里」で3月2日から販売する。同日午前10～11時には那賀総合センターで「読み語り会」も開催。ボランティアの語り部が本を朗読する。問い合わせは道の駅「青洲の里」（0736・75・6008）。

「青洲の魅力を伝えたい」と意気込む神徳さん（左）と谷脇さん（紀の川市で）